

■関連文化財群とは？

市域の地形、歴史的特徴、テーマ、文化財の分布等を踏まえ、地域に特有もしくは不可欠の物語とその文脈に沿った一連の文化財をまとまりとして認識し、既存の文化財保護制度では見落とされがちであった文化財を含めた多種多様な文化財を関連して捉らえることで、あらたな価値を捉え直すために「関連文化財群」を設定する。

また、「関連文化財群」の設定に際し景観や生活を含む周辺環境との一体的な保存、もしくは周辺環境の再構築が必要な区域、または関連する文化財が高密度に集積される区域については、「保存活用区域」を設定する。

<条件> 以下のような条件を考慮して設定する

- ①有形・無形を問わず多種多様な文化財を含むこと
- ②地域に特徴的な物語を有していること
- ③行政・市民による取組等がされており、価値が認識されている
或いは今後認識されることが期待されていること

<構成>

- ①名称 ②物語 ③関連する文化財とその関連性・価値
- ④代表（象徴）される景観とその関連性
（関連文化財群と培われた風土が一定のまとまりとして認められる景観がある場合）
- ⑤関連する文化財の分布状況（地図）



■保存活用計画

○全体計画

- ・把握の継続とデータベースの更新：市民協働型モニタリング体制
- ・指定文化財の既存制度に基づく保存管理
- ・未指定文化財の精査の継続と指定もしくは関連文化財群化の継続
- ・関連文化財群の再検証
- ・関連文化財群間の調整・連携
- ・情報発信
- ・人材育成・普及啓発・継承

○関連文化財群の保存活用

- ・保存すべき価値の明記
- ・関連文化財群ではあるが単体として存在する文化財の保存活用
- ・関連文化財群としての相互の関連性にかかわる保存活用
- ・保存活用区域の設定
- ・実行体制の整備
- ※民俗芸能のような地域に根差した無形文化財は、それぞれ所在する設定区域の構成要素として欠かせないが、区域を越えた横断的な保存活用が必要であり、その実行体制の整備も別途検討される必要がある。

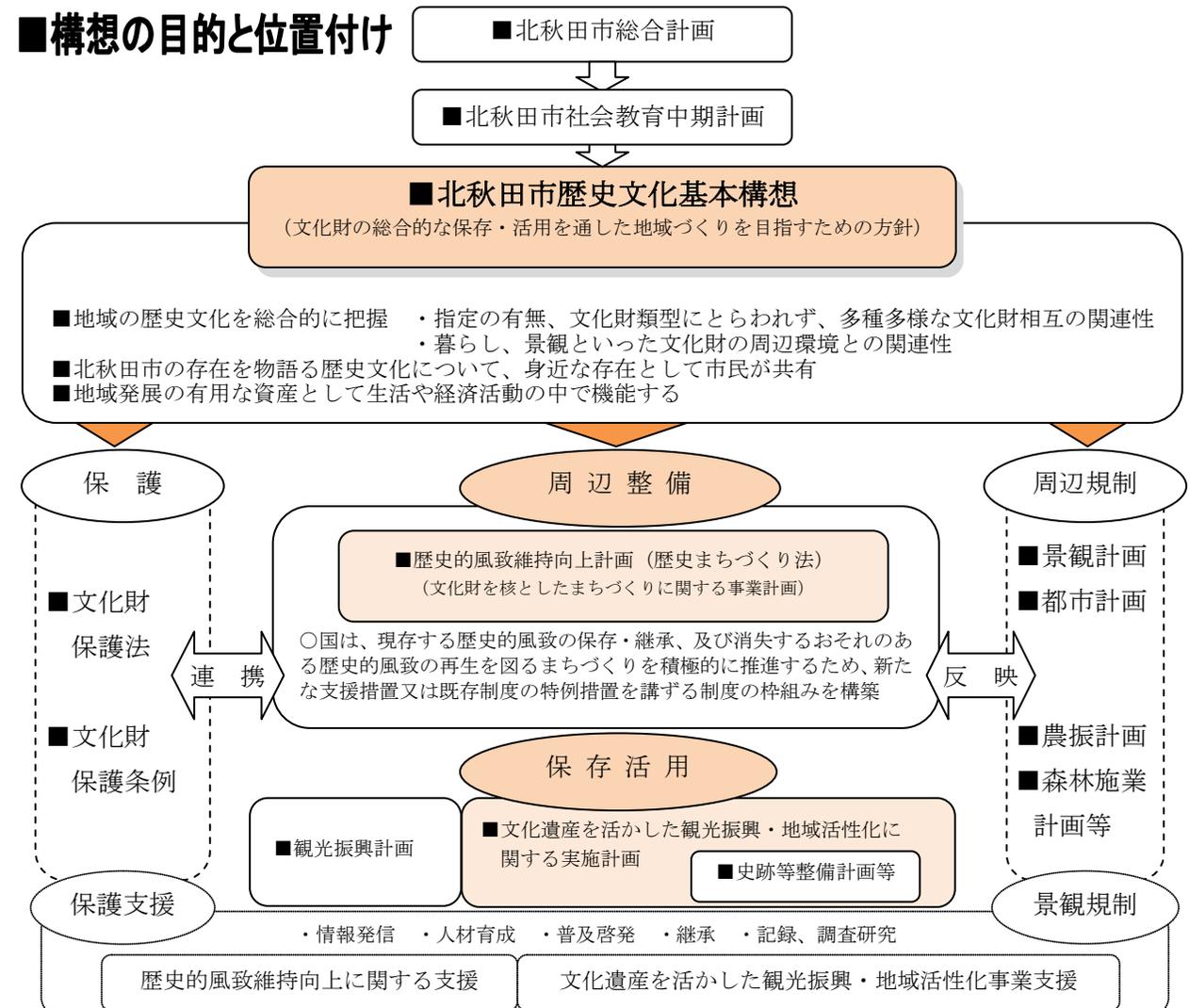
○まちづくりにおける役割

- ・地域特有の物語（保存すべき価値）を提唱。
- ・地域に暮らす一人ひとりが地域の歴史文化を具体的に意識するための道標として機能。
→住民が暮らしやすく来訪者に心地よい地域特有の景観を形成。
- ・地域固有性・ブランド力といった付加価値の付与。
- ・あらゆる地域、あらゆる世代の人々に学習の機会を提供。
→保存活用区域の設定、拠点施設や情報提供ツールの整備、市民との協働体制の確立を行うことで地域理解と情報共有を推進。

北秋田市歴史文化基本構想

歴史文化基本構想

■構想の目的と位置付け



代表的景観

● 綴子～街道沿いに発達した地域～

本陣跡から羽州街道南方向をながめる。綴子は、奥州街道の脇街道にあたる羽州街道の津軽氏本陣のあった宿場で栄えたところである。秋田県北部を東西に貫流する米代川中流鷹巣盆地の肥沃な田園を眼下に配している。道幅約8メートルの旧羽州街道沿いに津軽氏の本陣跡や、八幡社綴子神社、曹洞宗珠光山宝勝寺など主要な建造物が配置されている。明治天皇御小憩所・肝煎屋敷・本陣等の旧跡も多く、千年桂・根曲がり桜・松などの古木が街道らしさをさらに加えている。また、大太鼓の運行に支障のないよう電線、枝などの配置に配慮され、広い空間が確保される。



● 鷹巣三堰と穴堰～利水が育む村々～

近代に入って作成された絵図からは、低地（20～25m）の鷹巣盆地に拓かれた広大な水田の中に、あたかも浮かぶ島のようにわずかに隆起した土地（25～30m）に鷹巣村が存在する。道路や公共施設の配置は今でもその面影を残し、わずかな隆起を避けるようにめぐらされる堰が、広大な水田を潤してきた。また、内陸線や奥羽線の列車が水の張られた広大な水田地を走る様は、ミズスマシのようである。

● 羽根山・桃洞佐渡スギほか～秋田杉・ブナ原生自然に裏打ちされた産業～

秋田杉はかつて全域に生育していたと考えられ、歴史的に低地の北部から利用され、人工林に置き換わり、原生林は南部に残る。

・羽根山の土場・御札山土場とは木材の輸送または保管のために利用する木材の集積場所のことで、羽根山の土場は阿仁川と小阿仁川の合流点に位置していた。その西側には、かつて天然杉の産地で御直山（藩直営）に指定されていたが、後に樹木の伐採を一切禁止する御札山となった山林が広がっている。現在土場跡は砂利の広がる自然の河原となっているが、阿仁川の対岸から望む景観は林産と流通の関わりをうかがい見ることができる。

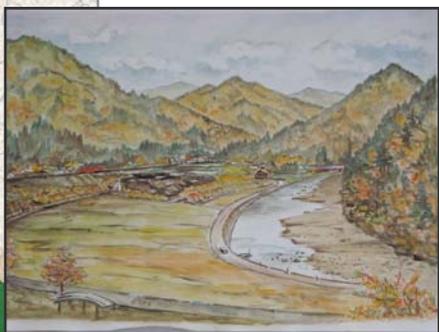
・御札山・御留山は、藩林政のさきがけであり、現在多くは国有林として人工林景観を見る。

● 伊勢堂岱遺跡～4つの環状列石を中心とした大規模な祭祀の場～



遺跡の範囲は20万㎡に広がる。その中で4つの環状列石は台地北端に集中する。狭い部分の地形を改変し、平坦面を確保しながら、環状列石やそれに関わる遺構を造営していることから、多大な労力をかけている。

沖積地との比高は現況でも約20mあり、眺望は非常によい。北西には白神山地、真北には現在も信仰の対象となっている田代岳など山並みを一望できる。



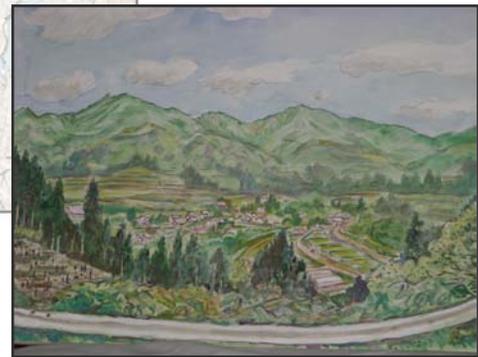
● 米内沢・上杉～阿仁川沿いに拓けた田園と流通交差点～

米内沢スキー場展望台から、眼下の米内沢の町並みをながめる。大きく蛇行する阿仁川がまぶしく光って見える。米内沢を中心とした一帯は、南北につながる阿仁街道が綴子方面と合川方面に分岐し、またやや下流側では東から五城目街道が交差する。はるか北西の白神山地を眺めると、うっすらと岩木山が、見え隠れし、大野台の西側に濃緑のかたまりが、広々とした田園を踏み台のようにささげる。これが秋田県でも珍しいケヤキ林である。



● 阿仁合～鉱山とともに発達した街～

愛宕神社脇の高台より河川敷を望む。かつて日本有数の産銅を生み出した500m前後の切り立った山々を背景に配し、山々を縫うように阿仁川が流れる姿は、山水画を思わせる。足下にみえる河川公園には、その昔阿仁川による大崩が形成され、鉱石、物資を積み下ろす舟溜まりとしてにぎわっていた。その奥に黒々とした不毛のカラミ山があり、盛期の阿仁鉱山の粗銅精錬をしのぼせる。その脇の高台には秋田内陸縦貫鉄道が走り、車両が入り出す阿仁合駅のすぐ近くには鉱山技師官舎の異人館が静かにたたずんでいる。



● 合川・小阿仁川流域～万灯火を受け継ぐ集落の点在～

合川南小学校二階屋上から、右に三木田、左に鎌沢集落の万灯火を眺める。

左奥に小阿仁川上流を見、鎌沢集落を過ぎると急激な眼下へと急激に向きを変え、再び右奥の三木田集落へと流化する。複雑に蛇行する流れにより形成される堆積地に田園と集落が形成される。その背後には、戦国期末期には秋田杉の重要な供給源となる1,000m未満の山々が連続する。



● 米内沢・阿仁前田～多彩な芸能の舞台となる街路～

南方には町のシンボル・信仰の対象である倉の山がそびえ、その山裾から阿仁川沿いに町が広がる。阿仁川沿いには川に向けた倉庫・石段・石垣など川港の面影が見られ、阿仁街道沿いには商店が立ち並ぶ。2の付く日に開催される市（市日）は、昭和30年代までは阿仁街道沿いで行われていたが、国道拡幅により現在は阿仁川沿いの広場（川港跡）に場所を移し開催されている。

米内沢で行われる民俗芸能は、神社・寺社の他、主要施設、阿仁街道沿いの町並みを巡り奉納される。特に倉ノ山頂上の三吉神社に奉納されるサギサギ（梵でん）は、町内の主要な町並みを練り歩く。

● 根子～山間集落と狩猟文化～

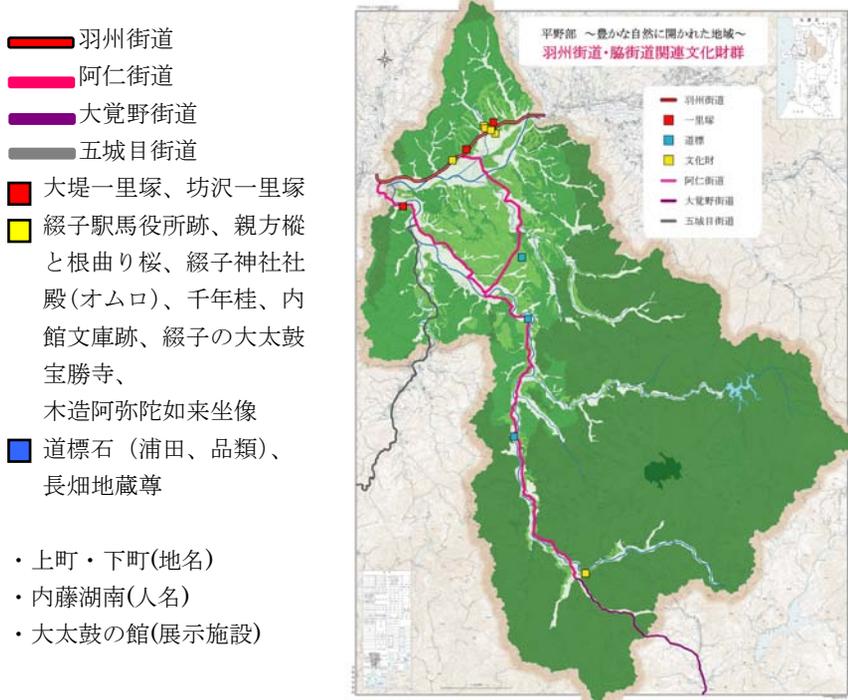
トンネルを抜けた展望台から根子集落を眺める。背後には1,000mほどの山々を配し、流れ出る沢水、溪流を利用した棚田が拓かれ、それより低地に集落が配置される。背後の山々は林業生産・焼畑・狩猟活動の場として利用されるほか、峠道によって近隣の村々との連絡を確保している。

一瞬、桃源郷に迷い込んだのではないかと、思わせる別世界。四方山に囲まれた家々が、肩を寄せ合っている。車はミズスマシのように走っている。人は、落人が住んでいた隠れ里という。

羽州街道・脇街道関連文化財群

一里毎に「大堤一里塚」「坊沢一里塚(跡)」など一里塚が置かれ、宿場が設置されるなど整備された。この街道を通り各藩役人、文人墨客などが往来し、さまざまな文化が流入したことが円空仏「木造阿弥陀如来坐像」などにも伺える。綴子村は宿場として本陣、問屋が設置され、現在のまちの佇まいは綴子宿として成された町割りの名残である。村の産土神社としての「綴子神社(社殿)」菩提寺としての「宝勝寺」もその中に組み込まれ、綴子神社では例大祭の際、羽州街道を練り歩き「綴子の太鼓」が奉納されるようになり、太鼓の大きさ競争などは明治以降から盛況となって今にいたる。

地域の主街道である脇街道としての「阿仁・大覚野・五城目街道」も「羽州街道」同様に整備され、分岐には「道標石」交通安全を祈願して「地藏尊(長畑)」が設置された。これらの街道は当地域の文化・物資流通の根幹を成し、今日の国道へ引き継がれている。



- 羽州街道
- 阿仁街道
- 大覚野街道
- 五城目街道
- 大堤一里塚、坊沢一里塚
- 綴子駅馬役所跡、親方礎と根曲り桜、綴子神社社殿(オムロ)、千年桂、内館文庫跡、綴子の太鼓宝勝寺、木造阿弥陀如来坐像
- 道標石(浦田、品類)、長畑地藏尊

- ・上町・下町(地名)
- ・内藤湖南(人名)
- ・大太鼓の館(展示施設)

○代表的景観
「綴子～街道沿いに発達した街～」

駒踊り等民俗芸能関連文化財群

かつて北秋田市には少なくとも51もの民俗芸能が存在したようである。獅子踊り(鞆鼓獅子舞系三頭獅子)・奴・棒使い等ササラ舞は、県北米代川流域にとくに多い芸能であるが、本地域では駒踊り・万歳・太鼓打芸等と合流して出陣(大名)行列として形をなすことが特徴的であり、この同一芸能の浸透からかつて市域の各集落が相互に影響し合っていたことがうかがえる。また、由利地方を中心に県内で最も多い番楽や太神楽(伊勢系一頭獅子)も多く伝承されていたことは、本地域の広域的な交流を想像させるものであり、交通の要所である米内沢地域を中心に多彩な芸能が集積されていることから伺える。しかしながら、盆踊り等の多くの芸能は伝承が途絶えており、現在確認できるものは26と半減している。このことは、少子高齢化によってますます深刻であり、地域共通の課題である。 主な参考:「秋田県民俗芸能一覧(秋田県文化財調査報告書第118集、1984 秋田県教育委員会)」



- 阿仁前田獅子踊り、駒踊り・獅子踊り・棒術・奴踊り等大名行列、獅子舞(太神楽)
- 根子番楽、番楽、盆踊り、餅搗き踊り
- 綴子の太鼓、猿倉人形芝居、ヤマヤマ、サギサギ・梵でん、阿仁からめ節、じゃこ釣舞、万灯火・火祭り、民俗芸能用具
- 阿仁地方の万灯火、

○代表的景観
「米内沢・阿仁前田～多彩な芸能の舞台となる街路～」

阿仁鉱山街と物流関連文化財群

中世に発見されたとされる阿仁鉱山は、近世に発展し享保年間には産銅日本一を記録し、農林業とともに秋田藩の経済を支える基礎となった。近代に入り民営化とともに、政府が進めた富国強兵政策のもと外国からの技術導入による近代化が進められた。阿仁鉱山が近世から近現代を支えた阿仁川流域の経済発展は、河川流通に関連した産物、技術、知識の集積を可能にし、時代に先駆けて拓かれた文化の面影を残す。

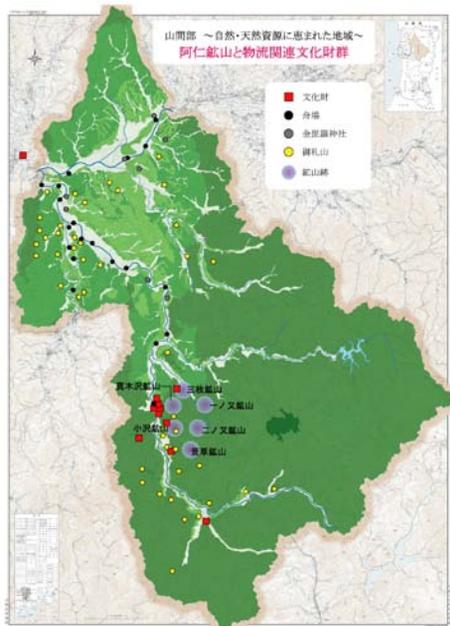
また鉱山の操業を継続するため、「御札山」「御留山」等による建材(秋田杉、薪炭(雑木))の計画的生産や近代化のための諸記録が多く文献によって今でも伝えられている。

- 旧阿仁鉱山外国人官舎、比立内発電所跡、石灯籠(山寺、銀山)・墓石・山門、阿仁からめ節、佐竹公御手植の松、小沢選鉱場跡、加護山精錬所跡、七面山神社(萱草、露熊)、鉱山用具(金摺り臼、砕女石、砕女槌)、からみ山・カラミ石、古文書(橋本、片岡、今林、湊、伊藤、鈴木、越前谷、柳谷など144)、絵図(阿仁銅山略図、阿仁鉱山作業絵図、銅山木山方絵図など)

- 鉱山跡
- 四十八滝と不動尊、金毘羅神社(7ヶ所)
- 舟場(20ヶ所)
- 御札山(44ヶ所)

- ・銀山町(地名)
- ・平賀源内(人名)
- ・なんこ鍋(伝統食)
- ・北秋田市阿仁文化保存伝承館(展示施設)

○代表的景観
「阿仁合～鉱山とともに発達した街～」



米代川・小猿部川農村関連文化財群

「胡桃館遺跡」の平安時代の木簡や、中世「館跡」が物語るように古くから水田が拓かれ、近世には「鷹巣三堰」や「黒森の岩穴堰」に代表される利水事業や新川敷設等の治水事業によって生産性が向上し、発達してきた地域である。一方で新田開発による効率的な単一作物生産と人口増加は、時に飢饉を深刻化させる遠因ともなり、飢饉や水害との戦いは「天保飢饉見聞実録」や「首切り塚と五義民地蔵」等からしのばれる。この治水・利水の努力は現代にも「鷹巣三堰揚水機場」や土地改良事業に引き継がれ、今現在も地域の主要な農業地帯となっている。

- 綴子肝煎本陣跡、長岐邸
- 鷹巣村御竿萬日記、永年記、首切り塚と五義民地蔵、天保飢饉見聞実録、掛軸「備荒米奨励の図」、鷹巣地区民具、古文書(長谷川家、長岐家等)

- 胡桃館遺跡(出土遺物)、中央公園(堤)、永安寺
- 館跡(14ヶ所)
- 鷹巣三堰、揚水機場、太田堰神社、黒森の岩穴堰(9堰)
- 坊沢開浴、古関(地名)
- 柳植林、鷹巣新川

- ・渡辺斧之松、長谷川伊右衛門(=伊三郎)(人名)
- ・秋田内陸縦貫鉄道、奥羽本線(鉄道施設)

○代表的景観
「鷹巣三堰と穴堰～利水が育む村々～」

